

関西大学高等部・中等部 2018年度学校評価報告書



2019年3月

目 次

1. 本校の概要.....	1
2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策	1
3. アンケートの実施状況	10
4. アンケート結果の分析	10
5. 学校関係者評価委員会からの評価結果	17
6. 校長の意見書.....	18
7. アンケート結果.....	19

1 本校の概要

(1) 沿革

2010年4月に高槻ミュージックキャンパスの地に初等部からの一貫教育をめざして、中等部3クラス、高等部4クラスが開校。施設設備面では教室に電子黒板が標準装備され、マルチメディア教室をはじめPC、iPadも多数用意され、全館でWi-Fiが利用できる環境にあり、ICT教育が充実している。中等部では週7時間の英語と「考える科」による思考力の育成を特徴としている。高等部は2014年に文部科学省からスーパーグローバルハイスクール(SGH)として採択を受け、開校当初から力を入れてきた探究力育成のプロジェクト学習をさらに発展させていく努力を重ね、特に国連の提唱するSDGsの研究に力を入れている。

生徒は初等部からの内部進学生、中等部からの入学生、高等部からの入学生という多様性を持っており、異なるバックグラウンドを持つ生徒に対応するためにカリキュラムを工夫し、先取りの教育よりも深化の教育を追求している。中高6年・初中高12年一貫教育のための教育活動をさらに充実させるべく、研究を重ねている。

(2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

関西大学の教育理念である「学の実化」に基づき、「学理と実際との調和」を基本とする独自の教育を展開し、一貫教育を通じて「確かな学力」「国際理解力」「情感豊かな心」「健やかな体」「高い人間力」を育てることを本校の教育理念としている。

2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①：生徒の学力を向上させて各自の進路希望を実現させる（分かるようになる、できるようになる授業が展開される学校）

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 中等部では「5教科学力の底上げ」と「家庭学習習慣の定着」のため、生徒が必要性を感じたり学習意欲をかき立てられたりする授業内容と家庭学習課題を研究する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中等部生徒の学力推移調査データにおける国、数、英の平均点偏差値が前年度を上 	<p>学力向上のためには家庭学習の量を確保することが必須であり、そのためには生徒の知的好奇心を引き出し、やりがいと伸長感を持つことができる授業を展開しなければならない。その研究の結果が効果的な発問・指示となる。</p> <p>本校中等部の授業を担当する各教員はそのような授業を追求し、動画や音声、映像、オンラインでアクセスできるクイズ等をiPadなどのICT機器を活用して提示したり、図表や写真などを用いて演習形式で解説をしたりするなど、創意工夫して生徒に内容理解・定着させる授業を行った。</p> <p>中等部では学力推移調査の学習実態データを毎回学年</p>

回る。

- 生徒アンケートの「授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか」と「課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか」という設問に対する回答の1、2（肯定的評価）の割合が70%以上。

毎に集約し、教科担当者と連絡を取り合い、指導すべき要
点の情報共有を行った。学力の定着を見るために、中等部
は学力推移調査を今年度3回実施した。

【達成状況(Check)】 (△)

中等部生徒の学力推移調査データにおける平均点は、各
学年とも前年度より若干上回ったが、平均点偏差値は微減
した。問題の難易度の影響もあるだろうが、このことは全
国的な伸びに対して本校の中等部生の伸びが若干追いつ
いていないことを示唆している。

中等部生徒アンケートでは、「授業を通じ、自分の学力は
向上していると感じていますか」という設問に対しては、
1が24.9%（昨年15.7%）、2が46.6%（同50.7%）、3
が19.1%（同23.4%）、4が9.4%（同10.3%）であった。
肯定的な評価は目標の70%を超えた。

「課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身
につけていると思いますか」という設問に対しては、1が
26.0%（昨年22.2%）、2が42.6%（同42.7%）、3が24.0%
（同26.2%）、4が7.1%（同8.5%）であった。肯定的な
評価は目標の70%以上には若干届かなかつたが、昨年度よ
り肯定的な回答をした生徒の割合は上がった。

【今後の改善方策(Action)】

授業では教師が一方的に何かを説明するのではなく、何
をどう学習すればよいかを体験させることで、生徒はその
意義や期待される成果を知り、やり方を把握した生徒は家
庭学習を自主的に行う。本校では昨年度より家庭学習量を
増やすための授業改善を目指してきたが、少しずつ成果は
出てきていると思われる。しかし、まだまだ数値的には物
足りなく、学力推移調査の平均点偏差値も前年度を下回っ
たことを考えると、さらなる改善が必要である。

具体的には、何ができるようにならなければならないか
を明確にし、それらができたときに平常点を与えるなどす
ると、生徒は意欲的に学習するようになる。目標と評価法
が明確になると学習に着手しやすくなるし、例えば進度票
などを持たせると、自分の到達度が視覚的に捉えられるよ
うになり、さらに意欲が増す。

「やっていて楽しい」という要素、「乗り越えて力がつ
いた」という要素、「分かるようになった、できるようにな
った」という要素などが学習を促進するので、その研究
をさらに続けていきたい。

	<p>定期考査や模擬試験後の解答解説や担任との面談を利用し、個別に具体的な指示を与え、生徒の家庭学習に対する意識を向上させ、学習習慣の定着を図るという流れは定着してきている。また、本年度は各学年で補習や勉強会を実施して成果を上げたので、今後も継続していきたい。</p>
<p>イ 高等部ではキャリア教育を充実させ、進むべき道を決めた上で逆算して学習計画を立て、自主的に学習をする姿勢を身につけさせる。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか」、「将来やりたいことが見つかリ、それに向けて逆算をして準備を始めていますか」、そして「関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか」という設問に対する回答の1, 2(肯定的評価)の割合が70%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>高等部では関西大学の学部説明会や法科大学院セミナーに参加させることで学部選択を促したが、職業選択のためのプログラムが若干不足していた感がある。</p> <p>高等部2年生は大阪フィールドワークを実施し、16の企業や団体からSDGs(持続可能な開発目標)の取組を聞き、将来自分ができること、やるべきこと、やれることに思いを馳せた。企業の方々からは、17のゴールのうち自分が何を選ぶかが職業選択に直結すると言われ、生徒は自らの進路に向けて思いを新たにしていた。</p> <p>学力の立ち位置を知るためには、高等部3年が4月に、1年、2年は4月と8月の2回スタディーサポートを実施した。模擬試験後の面談では、個人成績票の読み取り方や教科別に克服すべき単元の指摘などを丁寧に担任が行った。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>高等部生徒アンケートの「授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか」という設問に対しては、1が19.4%(昨年16.0%)、2が49.0%(同48.4%)、3が25.3%(同27.0%)、4が6.4%(同8.6%)であった。肯定的な評価は目標の70%以上には若干届かなかったが、全体的に昨年より数値は向上した。</p> <p>「将来やりたいことが見つかリ、それに向けて逆算をして準備を始めていますか」という設問に対しては、1が25.3%(昨年22.1%)と2が40.5%(同36.0%)で、これも目標は達成できなかった。「関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか」という設問に対する回答は、1が31.7%(昨年29.1%)、2が45.6%(同47.7%)であり、合計77.3%となり、目標を達成した。各学年で進路指導にさらなる力を入れたことや、学部説明会への参加が生徒の進学意識の向上につながったと思われる。本年度の高3生は、関西大学への内部進学が98%の合格であった。難関国立大の合格</p>

	<p>発表では、京都大学が1名、大阪大学が7名、神戸大学が3名合格した。結果として、難関国公立大に現役で15名合格という結果であった。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>現在はキャリア教育の明確なシラバスがなく、ある程度学年の裁量に委ねられている部分があるので、6年を見通したシラバス作成に着手したい。</p> <p>また、関西大学内部進学の評定方法が変更になるため、その準備も多少の変更を余儀なくされると推察される。関西大学の決定を受けて早急に対策を講じ、万全の準備をする所存である。</p> <p>現高等部1年生は大学入試改革の初年度に受験を予定しており、学年を挙げてその意識付けを行ってきたので、中等部時代とは異なる学習集団にと変容しつつある。情報を細かく提供し、将来の展望や希望を元に現時点における具体的な目標を持たせることで、学習への動機付けを図りたい。</p> <p>定期考査後の答案返却時に実施しているガイダンスで、担任は各生徒に対して振り返りと次への指針を提示しているが、このような取組も継続して行う予定である。</p>
--	--

(2) 重点目標②：考動力とチャレンジ精神にあふれ、人を思いやり、言葉を大切にする生徒集団を育成する（笑顔と感動のある充実した学園生活を送れる学校）

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 各授業や学級会活動、生徒会活動、行事などを通して、他者を理解し、受け入れ、思いやる心を備えた、人権を尊重し、いじめを許さない、道徳観、倫理観の高い生徒を育成する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「マナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか」、「いじめを許さない指導が日常的に行われている 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>中等部1年と高等部1年は入学直後に宿泊訓練を実施し、関西大学への理解を目的とした講座を実施して関西大学の一員としての帰属意識の涵養を図るとともに、新たな友人作りと親睦、相互理解を図った。</p> <p>中等部では「考える科」における命の授業などを通して、生命の尊さ、思いやり、相手の立場になって考えることで相手を理解すること、異なる意見を受け入れて調整することなどを学習した。</p> <p>高等部ではプロジェクト科目でSDGsについて学習することで世界の情勢を知り、貧困、飢餓、疾病、不平等、衛生状態、基本的権利などについて知見を深めた。このことは、生徒の倫理観、道徳観をより豊かなものにしてくれた。</p> <p>人権教育に関しては、全学年を対象に外部講師を招いての人権教育講演会を実施したり、人権作文を書かせたり、</p>

と思いますか」、「他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか」、「異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか」という設問に対する回答の1, 2 (プラス評価) の割合が70%以上。

SNS 研修をすることで人権尊重の態度を養ったが、まだまだ十分とは言えない。全ての教科や科目、領域の中で常に相手を尊重し、思いやることを促し、人権感覚をさらに磨いていかなければならないと考えている。

【達成状況(Check)】 (△)

「マナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか」という設問に対しては、中等部生の73.4% (昨年62.4%)、高等部生63.3% (同60.6%) が肯定的評価をした。高等部は目標の70%には届かなかったが、数値は向上した。

「いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか」に対する肯定的な回答は、中等部生72.0% (昨年64.4%)、高等部生64.2% (同67.3%) で、これも高等部は70%には届かなかった。

「他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか」に対しては、中等部生72.3% (昨年62.4%)、高等部生も62.5% (同62.4%) が肯定的な評価をしたが、これもまた高等部が70%を切った。

「異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか」は、中等部生75.5% (昨年69.3%)、高等部生77.7% (同75.7%) が肯定的評価をしており、中高とも目標の70%を超えた。

【今後の改善方策(Action)】

中等部と高等部のアンケート結果では、「指導」という言葉がある項目で差が生じていた。すなわち、高等部生は中等部生と比較して教員の指導が不足していると考えている傾向が見られた。これは、人権意識の高揚を目指して指導することが多かった中等部生に対して、高等部ではそのような機会が中等部ほど多くなかったことが要因として考えられる。最近SNSの投稿を巡って誤解が生じてトラブルが起こることも多く、高等部生であっても様々な問題が生じる可能性がある。問題が表面上に現れていなくとも、安心することなく、常に細心の注意を払い、トラブルを未然に防止する教育が必要であることを、今回のアンケート結果から学んだ。

今後、道徳が教科化されるのに伴い、挨拶と礼儀作法を重んじ、相手を思いやることができる、人権感覚に満ちた生徒を育成するための教育を充実させていく所存である。

<p>イ 学級会活動、生徒会活動、各行事などに積極的に参加し、思考→判断→行動→反省→改善していく、考動力と自治力のある生徒集団を育成する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「学校生活は楽しいと感じていますか」、「この学校に入学して良かったと思いますか」、「各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか」という設問に対する回答の1, 2（肯定的評価）の割合が70%以上。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>体育祭では教員がマイクを握ることは全くなく、当日は全て生徒が運営している。生徒会が中心となって動いているが、今年度も全員が積極的に参加して感動のある素晴らしい体育祭となった。</p> <p>文化祭も生徒会が中心となって運営していくが、毎年テーマを変えて工夫を凝らしている。今年も盛り上がったが、テーマ別の発表や展示物の充実など、さらなる充実が求められる。</p> <p>体育祭や文化祭は生徒の自主・自律を促すために生徒を企画・運営に参画させているが、準備期間中や当日に起こりうるトラブルを予測するとともに、適切に解決していくための指導を確認し、感動のフィナーレを迎えられるよう教員が話し合わなければならない。特に文化祭では生徒が学校外で活動することがあり、教員の目が行き届かないところでのトラブルが起こりやすいので、予防的な指導に注力するよう努めた。しかし、準備に多忙を極めることもあって教員が時間を共有することが十分にできておらず、改善の余地があると思われる。</p> <p>その他、生徒の自主的な行動力を促すために、オープンスクールでの発表やキャンパスツアーのエスコート、台湾師範大附属中高、シンガポールホワチョンインスティテュートからの短期交換留学生のホスト役、海外研修等の紹介、報告展示などを実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <p>「学校生活は楽しいと感じていますか」に対しては、中等部生の 87.7%（昨年 81.7%）と高等部生の 84.7%（同 87.6%）が肯定的な評価をしている。</p> <p>「この学校に入学して良かったと思いますか」に対しては、中等部生の 84.3%（昨年 78.0%）と高等部生の 73.6%（同 72.7%）が肯定的な評価をしている。</p> <p>「各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか」という設問に対する肯定的回答は、中等部生が 79.7%（昨年 69.3%）、高等部生が 76.6%（同 75.5%）であり、各設問に対する肯定的評価はいずれも目標の 70%を超えた。特に中等部生の満足度の伸びが顕著であった。</p>
---	---

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>学校生活が楽しいと回答した生徒は、中等部、高等部とも8割を超えているが、本校に入学してよかったと回答している生徒が、中等部は8割以上に対して、高等部は7割を少し超えた程度であった。特に「どちらかと言えばそう思う」よりも積極的な肯定である「そう思う」という回答をした生徒は、中等部では44.9%であったが、高等部では29.6%にとどまった。高等部生の48.5%が学校生活は楽しいと答えている一方で、入学してよかったと積極的に回答している生徒が29.6%しかいないのは、学力の向上を実感している生徒（「そう思う」と回答した生徒が19.6%）が少ないことが一因として挙げられるだろう。学力向上に関して「どちらかと言えばそう思う」と回答した生徒が、いかに自信を持って「そう思う」と言えるようになるか、あるいは学力向上を感じられなかった生徒をどう伸ばすかが、今後の課題である。そのためには、学習の動機付けを促し、学力を向上させる指導法を研究し続けなければならない。</p>
--	--

(3) 重点目標③：生徒を理解し、適切な指導をすることで信頼関係を築く（教師と生徒が信頼関係で結ばれた学校）

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア（初等部、）中等部、高等部、大学が連携を図り、一貫教育の利点を生かして生徒を長期的展望で育てる意識を持ち、教員が一人ひとりの生徒と向き合い、生徒理解に努め、それぞれに合った生活指導や進路指導をすることで教師と生徒の信頼関係を築く。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか」と「高大あるいは中大、中高の学校同士の教育連携 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>小中高大接続は本校の大きな課題であり、本年も継続して強化を図ってきた。具体的には、2度の初中連携会議、校務運営委員会や生徒指導・人権教育部会における中等部・高等部の生徒の情報交換、初中の管理職ミーティングなどが挙げられる。</p> <p>中大接続に関しては、中1が千里山フィールドワークを実施した。高大接続は、高1が法科大学院セミナー、高1・高2が希望学部の学部説明会などを実施した。また、関西大学とは、配慮を必要とする高3生徒の情報交換を行ったが、さらなる改善の余地があると思われる。</p> <p>生徒とのコミュニケーションに関しては、各担任が複数回の二者面談や三者面談を実施して生徒の思いや悩みを聞いたり、学習の到達度に関する話し合いをしたり、今後の指針を与えたりした。</p> <p>【達成状況(Check)】 (△)</p> <p>「先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指</p>

<p>があると思いますか」という設問に対する回答の1, 2 (肯定的評価) の割合が70%以上。</p>	<p>導の意図を理解していますか」という設問に対する中等部生の肯定的回答は70.6% (昨年59.2%)、高等部生は66.2% (同66.5%) であった。</p> <p>「高大あるいは中大、中高の学校同士の教育連携があると思いますか」という設問に対する回答のうち肯定的なものは中等部生が70.0% (昨年62.9%)、高等部生が70.4% (同71.3%) であった。</p> <p>ここでも高等部生の評価の低下と中等部生の評価の向上に顕著な差異が見られる。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>全ての項目が70%を辛うじて超えたか、届かなかったかという結果であり、特に高等部におけるコミュニケーションを増やす必要がある。二者面談や三者面談は十分に行っているが、いずれも教師からの働きかけによる話し合いであり、生徒がその他の形態のコミュニケーションを望んでいる可能性があるため生徒の声を集めたい。また、生徒が納得する指導・納得する説明を心がけ、その研究を進め、校内研修を開催するなどしてノウハウを共有したい。</p> <p>初中連携に関しては、本年度も2度の初中連携会議を実施して教員同士の親和性の向上、初中一貫教育の課題把握と共通理解、初中一貫教育の方向性(育てたい力、身につけさせたい力など)の共通認識と実践交流を行った。第2回は中等部入試問題の狙いとポイントを中等部の教員が説明し、その後討論を行ったが、来年度も継続して実施して生徒理解をさらに深めたい。</p> <p>初等部は研究授業を積極的に行っており、その一覧を入手して中高の教員に案内した結果、初等部の授業を見学に行く教員が増加した。初等部の研究発表大会には中等部・高等部の教員も多数参加したり授業公開したりしているが、一方で中等部・高等部が昨年度から実施している研究授業週間を今後は初等部へも案内して交流を深め、初中高が12年一貫して生徒を育てていく道筋を確立したい。</p> <p>大学との連携に関しては、関西大学の各学部との話し合いの中で卒業生の大学入学後の様子を把握することができたが、入学後の単位取得や入学前の準備などについてさらなる指導が必要であることが判明したので、改善していく所存である。</p>
--	--

<p>イ 学校生活の中で起こる様々なトラブルに迅速・適切に対処し、生徒が悩みや不安などについて相談したり、目標や夢などについて語ったりする場所や環境を整備する。</p> <p>【評価指標】 「先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか」、「悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか」という設問に対する回答の1、2（プラス評価）の割合が70%以上。</p>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】 本年度もいくつか生徒指導案件が発生したが、各担任・部活動担当者・その場にいた教員などが、学年主任・生徒指導主任・人権教育主任に報告・連絡・相談し、処理に当たった。問題が発生したときの初動は概ね適切だったが、いじめ案件での初動を巡って問題が発生したことがあり、その後の対応で善処した結果、解決を見ることができた。 各学年の生徒指導係と生徒指導主任、人権教育主任、養護教諭が毎週会議を開いて情報交換し、個別の対応策を練ったり、指導の結果を報告したりすることで生徒理解を図り、指導法を共有するよう努めた。専門的知識を要する案件については、スクールカウンセラーや外部専門家のアドバイスを仰いだ。</p> <p>【達成状況(Check)】 (△) 「先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか」という設問に対しては、中等部生の60.9%（昨年56.1%）、高等部生の55.5%（同57.4%）が肯定的な評価をした。 「悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか」という設問に対する回答のうち肯定的なものは、中等部が66.3%（昨年53.6%）、高等部が62.4%（同63.0%）で、2つの項目とも70%には及ばなかった。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】 コミュニケーションの方法が時代とともに変化し、実際（バーチャルにではなく）に子ども同士が一緒に遊んだり学んだりする体験が減っており、以前ならばより低学年の頃に経験していたトラブルが高学年で発生するようになってきた。本校でも、以前は中等部で起こっていたような案件が高等部で発生するようになり、教員の間で戸惑いが見られた。 目標の70%には到底及ばないが、中等部では数値が向上しているのに対して、高等部は肯定的な回答が減少したことは、このことに関連があると考えられる。今後、中高の教員全員が中学校での手厚い生徒指導を学ぶ必要がある。 また、定期的な話し合いやアンケートだけでなく、平素より生徒観察と生徒理解に努めることでトラブルを未然に防いだり、悩みや迷い、つまずきなどを教員が察知して、</p>
---	--

	救いの手を差し伸べたりするなどしていきたい。
--	------------------------

3 アンケートの実施状況

	項目	中等部・高等部
共通方針	組織面の自己評価	10月31日の校務運営委員会で各主任に対して組織としての自己点検・評価について説明した。 11月7日職員会議において、全教員による「組織面の自己点検・評価」アンケート実施を通告、その後実施した。
	学校関係者評価	学校関係者評価委員会を開催し、実施した。
	第三者評価	外部評価委員会に委ねる。
相違点	教員個人による自己点検・評価	教員評価制度の活用により、学校運営、学ぶ力の育成、自立・自己実現支援における目標を各教員が設定し、自己申告による評価及び校長面談を実施した。
	児童・生徒の評価	11月上旬に中等部・高等部ともに「学校生活全般」に関するアンケートに学校評価共通項目を盛り込んで実施した。
	保護者の評価	11月上旬に中高等部の全保護者を対象に実施した。

4 アンケート結果の分析

(1) 学校全般

設問1の「学校生活は楽しいと感じていますか」に対しては、中等部生の53.4%が「そう思う」、34.3%が「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、昨年より数値は向上した。中等部保護者は「ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか」という問いに対して、「そう思う」が52.3%で「どちらかと言えばそう思う」が36.5%であり、生徒も保護者も「そう思う」が5ポイント上がった。

高等部生は48.5%が「そう思う」、36.2%が「どちらかと言えばそう思う」と答えている。高等部保護者は「ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか」という問いに対して、「そう思う」が46.3%で「どちらかと言えばそう思う」が39.2%で、ほぼ横ばいであった。

これらを総合すると、8割以上の生徒が学校生活を楽しくしていると推察されるが、一昨年の数値にはまだ若干劣っている。

設問2の「この学校に入学して良かったと思いますか」に対しては、中等部1年生の70.8%（中等部1年生保護者59.0%）が「そう思う」、26.5%（保護者同33.7%）が「どちらかと言えばそう思う」と回答し、高等部1年生は40.8%（高等部1年生保護者44.3%）が「そう思う」、31.0%（保護者同38.7%）が「どちらかと言えばそう思う」と答えており、生徒の満足度が高い。

卒業の年に当たる3年生の満足度は、中等部3年生の26.7%（中等部3年生保護者50.0%）が「そう思う」、44.0%（保護者同34.1%）が「どちらかと言えばそう思う」となっており、決して高いとは言えない。

ただ、中等部3年生の設問1に対する回答は、昨年中等部2年生の時は「そう思う」が34.2%、「どちらかと言えばそう思う」が31.6%であったが、1年経ってそれぞれ44.8%と38.8%というふうに、大幅に満足度が向上しており、学校生活は楽しんでいると思われる。一方で、学習におけ

るつまずきのフォローアップや教員とのコミュニケーションなどは十分でない」と回答しており、それが設問2の結果に反映されたものと推察される。

高等部3年生の設問2に対する回答は、「そう思う」が30.3%、「どちらかと言えばそう思う」が47.6%で、昨年より「そう思う」が11ポイント上がっている。

高等部3年生保護者は「そう思う」が44.3%で、「どちらかと言えばそう思う」も44.3%であった。

設問1に対する教員の回答は、「そう思う」が15.0%、「どちらかと言えばそう思う」が80.0%であり、設問2に対する教員の回答は、「そう思う」が2.5%、「どちらかと言えばそう思う」が77.5%と、生徒や保護者の満足度と比較して控えめな評価をしている。

(2) 学校運営

本校の教育方針がどれぐらい教員、生徒、保護者に浸透しているかに関しては、「そう思う」教員2.5%、中等部生徒22.6%、高等部生徒15.5%、中等部保護者37.9%、高等部保護者33.7%で、「どちらかと言えばそう思う」が教員50.0%、中等部生徒49.7%、高等部生徒45.1%、中等部保護者53.8%、高等部保護者56.1%で、大きな改善は見られなかった。

本校は開校以来探究型の授業の研究を進めており、全国でもトップクラスであるとの評価を得ている。英検の取得率も高く、探究型の授業で作成する論文のアブストラクトを英語で書いたり、英語で発表したり討論したりする様子などを学校説明会で紹介すると、保護者は強い関心を持たれる。保護者は学校を選ぶ際、教育方針や教育目標をパンフレットやウェブなどを通して熟読しておられ、本校の教育方針をよく理解しておられるが、生徒はあまりそれを感じていないと思われる。

教員は3併設校の中での際立つ違いを生み出そうと努力しているが、まだまだ十分とは言えず、自己評価が低くなっている。また、関大併設校としての「関大魂」の浸透が十分でないとする教員も多く、愛校心の高揚を促す教育を展開したい。

会議の有効性に関しては、5%の教員が「そう思う」、42.5%の教員が「どちらかと言えばそう思う」、40.0%が「どちらかと言えばそう思わない」、12.5%が「そう思わない」と答えており、昨年に続いて否定的な回答をした教員が半数を超えた。一人平均週5コマが会議に充てられており、それが会議の有効性に疑問を感じる教員の数を増やしている可能性があるため、会議の数を減らし、効率化をしなければならないと考えている。

教員間連携に関しては、教員のうち、「そう思う（以後、1と表記する）」が2.5%、「どちらかと言えばそう思う（以後、2と表記する）」が50.0%、「どちらかと言えばそう思わない（以下3と表記する）」が35.0%、「そう思わない（以下4と表記する）」が12.5%と、昨年に続いて肯定的な評価と否定的な評価がおおよそ半々に割れた。管理職と教員との連携も、教員のうち、1が7.5%、2が35.0%、3が37.5%、4が20.0%であり、改善が見られなかった。管理職が多忙を極めており、十分な対応ができなかったことが要因となっていると考えている。

次に、ウェブや学級通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供をしているかという設問に対しては、教員のうち17.5%が1、62.5%が2、保護者のうち中等部20.1%、高等部17.5%が1、中等部44.8%、高等部50.8%が2と評価した。ウェブのアップロードは行事ごとに新着情報を載せるなど頻繁に行っているが、学級通信は担任に委ねており、業務の多さや働き方改革などの影響により、頻繁に発行することは難しくなっている。生徒に学級新聞を作成させる

などの工夫が必要だと思われる。

危機管理に関しては、「事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっているか」という問いに対して、教員は1が5.0%、2が42.5%、3が30.0%、4が22.5%と評価が昨年を下回った。保護者は1が中等部26.4%、高等部22.7%、2が中等部48.0%、高等部45.6%、3が中等部17.1%、高等部23.8%、4が中等部8.6%、高等部7.9%と、課題が残った。本年度は地震や台風、大雨などの自然災害が多く、数日臨時休校にせざるを得ない状況になったが、9月4日に大型の台風21号が上陸した際、早朝5時半にJRが動いていたので通常通りの授業を実施すると決定し、その後管理職が全員学校に向かったが、その間にJR神戸線で架線事故が発生して運転見合わせとなり、学校へ来ることができない状況の保護者からの苦情が殺到した。この経験から、朝6時に通常通りの授業を実施するかどうかの発表をしたあと、管理職は時差出勤し、常に管理職の誰かが公共の交通機関の情報等を監視して臨機応変に対応できるようにした。また、その後ウェブや一斉メールの活用、スマートフォンなどの携帯に関して討議を重ねており、来年度はその反省を生かすつもりである。

生徒の「先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていますか」という問いに対する回答は、1が中等部26.0%、高等部15.9%、2が中等部34.9%、高等部39.6%、3が中等部24.9%、高等部28.0%、4が中等部14.0%、高等部16.4%で、昨年より1の肯定的評価が増加したが、まだまだ不十分であり、それが設問1の評価より設問2の評価が低いことの一因となっていると考え、より素早く適切な対応を心がけていきたい。

本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用に関しては、教員は1が5.0%、2が45.0%、保護者は1が中等部24.3%、高等部20.1%、2が中等部58.6%、高等部54.4%であった。中1は「考える科」の授業の中で高槻市について学習しており、また今年度は高3がプロジェクト学習の中で高槻市の商品の販売促進を競うなどしたが、本校の取組を地域の方々に知っていただく取組は不足していたので、今後はそちらも注力したい。

(3) 知育（学習指導）

学力向上のための組織的な取組ができているかどうかに関しては、1が教員5.1%、中等部保護者が19.3%、高等部保護者が21.8%、2が教員41.0%、中等部保護者が44.2%、高等部保護者が41.6%、3が教員41.0%、中等部保護者が27.9%、高等部保護者が27.8%、4が教員12.8%、中等部保護者が8.6%、高等部保護者が8.8%であった。学力向上のために最も必要なことは、充実した授業内容であり、授業を通してどのように生徒の学力向上を目指すのかを明示してほしいという保護者の声があり、年間、学期の到達目標、その到達度を測る適切なアセスメント方法、その目標へ到達するための具体的な手立てを透明化する必要がある。各学期が始まる前に教科ごとに教員が協働して到達目標に準拠した定期テストの原案を作成し、ポイントを公開した上でシラバスを開示することを考えなければならないと考える。

ICT環境を活用した授業内容に関しては、1が教員15.0%、中等部保護者が45.1%、高等部保護者が42.8%、2が教員85.0%、中等部保護者が40.3%、高等部保護者が43.9%であった。本校の充実したICT環境に魅力を感じている保護者は多いが、教員の自己評価は低い。iPadやパソコン、電子黒板などを使用するのは学習を促進するためであり、それ自体が目的になってしまっていないことを教員は自覚しているながらも、その成果を十分実感できていない者は高い自己評価ができ

なかったと思われる。授業においては ICT 環境を活用して活発な議論は起こっているが、知識・技能が定着し、考査などで成果が現れるにはやはり反復練習や集中的な学習が必要で、その苦しさを乗り越えさせる部分が不足していると学力は向上しない。いかに生徒を夢中にさせて無意識のうちに反復練習させ、基礎・基本を定着させることができるかがポイントであり、その研究を推進していきたい。

キャリア教育の充実に関しては、教員は1が10.0%で2が47.5%、生徒は1が中等部16.9%、高等部25.3%で2が中等部31.4%、高等部40.5%、保護者は1が中等部9.8%、高等部23.4%、2が中等部47.0%、高等部48.0%で、いずれに数值も低かった。キャリア教育の充実は各教科の学習に対する動機付けとなり、学力向上に寄与することが分かっている。本校も6年に渡るキャリア教育のシラバスを作成する必要がある、特別活動やプロジェクト学習などと絡めながら作成していきたい。

「関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか」という問いに対しては、中等部20.6%、高等部31.7%の生徒が1、中等部40.0%、高等部45.6%の生徒が2と回答した。若干高等部の生徒の数值のほうが中等部生のそれよりも高いが、1の数值は高等部でも31.7%に過ぎないので、関西大学の魅力を今以上に伝え、その数值を上げたい。

「将来やりたいことが見つかり、それに向けて逆算をして準備を始めていますか」という問いに対しては、高等部生の25.3%が1と回答し、40.5%が2と回答した。将来の人生設計は決定が早ければ早いほど準備期間が長くなることを認識させてこの数值を上げるとともに、複数の選択肢を持たせて学部選択の可能性を広げたい。それはひいては転職する力にもつながるので、学校生活の中で「好きである、興味がある、面白いと思う」ことを増やすと同時に、「できる、自信がある、得意だ」ということを増やしてやりたい。

主体的で対話的な深い学びに関しては、教員は1が12.5%、2が50.0%で、決して高くない。保護者の評価はそれぞれ中等部が23.4%、高等部が22.3%、中等部が52.8%、高等部が54.0%で、若干保護者の方が数值が高かった。思考力、判断力、表現力を高めるための授業を追究しつつ、まだまだレクチャー型の授業をしている時間が長いと感じている教員が多いことが想像できる。主体的で対話的な深い学びは、良い発問と指示が誘発する。来年度は私立大学併設校附属校サミットが本校で開催されるので、その部分を研究テーマの1つとしたい。

模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っているかという問いに対しては、1と回答した生徒が中等部18.6%、高等部18.2%、教員が12.5%、2と回答した生徒が中等部46.0%、高等部49.2%、教員が65.0%であった。担任教員は学力推移調査等を実施したあと生徒と個別に面談をしてその振り返りを行っているが、それに関して教員の肯定的な回答が77%を超えるのに対して、生徒は中等部64.6%、高等部67.4%にとどまり、教員の意図がきちんと生徒に理解されていない可能性が見えてきた。説得から納得へと変えていく意識が必要かも知れない。

学力不足生徒へのフォローのための補習授業や個人指導に対しては、1と回答した生徒が中等部16.3%、高等部16.4%、教員が7.5%、保護者が中等部7.8%、高等部13.3%、2と回答した生徒が中等部40.9%、高等部39.6%、教員が55.0%、保護者が中等部36.8%、高等部39.3%であった。昨年と比較して教員と保護者は数值がかなり高くなったが、1の数字がまだまだ低い。授業で十分時間を割いて指導することができなかった生徒には補習や放課後の個別指導が必要であるが、

その点は各学年が今年度から主体的にプログラムを構成するなどして、学力保証のために尽力した。しかし、その取組は十分ではなく、さらなる改善が必要だと、教員も保護者も感じていることが分かる。また、働き方改革関連法案が参議院本会議で成立し、今後は年間 360 時間以上の残業ができなくなったからには相当の工夫が求められる。時間割や日程を変更するなどして対応し、生徒の学力保証に努めたい。

学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っているかという項目に対する教員の回答は 1 が 12.5%、2 が 72.5%と、昨年と比較して数値が下がった。各教員は三者面談を含めて頻繁に保護者と連絡を取っているが、さらに話し合いが必要だと感じているものと推察される。これに対して「学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか」という問いに対する保護者の回答は、1 が中等部 19.0%、高等部 22.2%、2 が中等部 53.9%、高等部 47.4%で、昨年より評価が上がっているが、2 が教員ほど多くない。全体的にアンケート結果からは学習面での手厚いサポートと、“報連相”を保護者から期待されており、残業時間の上限が定められた状況でどうその期待に応えるかを考えなければならない。

(4) 徳育（生活指導）

社会規範の理解とモラルの醸成に関しては、1 が教員 10.0%、生徒が中等部 25.1%、高等部 20.7%、保護者が中等部 22.0%、高等部 23.5%、2 が教員 55.0%、生徒が中等部 48.3%、高等部 42.6%、保護者が中等部 56.0%、高等部 54.4%であった。昨年と比較して教員と生徒の評価はかなり上がったが、保護者はほとんど変わらず、生徒が思っている以上に保護者は社会規範の理解とモラル醸成を子どもや教員に期待していると思われる。生徒は明朗活発で、来校者に対してもきちんと挨拶できる者が多いが、登下校や車中での態度、SNS 上でのマナー、携帯電話の使用法など、相手に対する敬意などは改善しなければならない点がある。また、朝の挨拶や正しい服の着用などをさらに徹底していきたい。

いじめ事象への対応は、1 が教員 42.5%、生徒が中等部 32.0%、高等部 24.1%、保護者が中等部 28.3%、高等部 23.2%、2 が教員 52.5%、生徒が中等部 40.0%、高等部 40.1%、保護者が中等部 50.2%、高等部 58.6%であった。教員は肯定的な評価が多いが、生徒と保護者の回答とは乖離がある。特に生徒の満足度が低く、常に生徒の言動を観察して SOS のサインを感じ取って対応することが求められている。教員はいじめアンケートを実施したり、二者面談をして生徒の悩みを聞き出したりしてその解決に尽力しているが、生徒は教員が思うほど満足していないので、さらに努力していきたい。

他者の人権を尊重する教育が十分に行われているかという問いに対しては、1 が教員 7.5%、生徒が中等部 28.3%、高等部 16.9%、保護者が中等部 19.4%、高等部 17.8%、2 が教員 72.5%、生徒が中等部 44.0%、高等部 45.6%、保護者が中等部 57.8%、高等部 57.9%であった。昨年と比較して教員の評価が若干下がったが、それでも肯定的な意見が 80%に上る。それに対して生徒は約 66%にとどまり、他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思う生徒をいかに増やすかが来年度の課題である。

ボランティア活動に関しては、「授業や学級会活動などを通して地域・社会の現状を知らせ、自主的な社会貢献を促しているか」という設問に対して 1 をつけた教員が 2.6%、2 をつけた教員も 53.8%にとどまった。保護者に対する「お子さまの日常的な言動の中に、社会や地域、他者に対す

る貢献の意識が見られるようになったと思われませんか」という問いに対しては、1が19.0%、2が45.7%であったが、高等部ではプロジェクト科目でSDGs（持続可能な開発目標）に本格的に取り組むようになったので、今後改善が期待される。

（5）体育

基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導に関しては、1が教員7.5%、生徒が中等部28.6%、高等部18.9%、保護者が中等部21.3%、高等部17.3%、2が教員62.5%、生徒が中等部50.0%、高等部45.8%、保護者が中等部58.6%、高等部52.6%であった。健康増進のためにどのような取組をするか、あるいはしているかに関しては、保健主任や養護教諭、体育教員などから積極的に発信してもらい、教員に周知徹底することで参画を促したい。本校教育理念の四つの柱のうち、「確かな学力」の育成同様に、「健やかな体」をどう作るかについての活発な議論もしていかなば学力向上にもつながらない恐れがあるので、今後注力していきたい。

（6）学校行事

生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経るごとに成長していくための指導がなされているかどうかという設問に対しては、1が教員12.5%、生徒が中等部32.0%、高等部29.2%、保護者が中等部33.7%、高等部28.6%、2が教員65.0%、生徒が中等部47.7%、高等部47.4%、保護者が中等部55.4%、高等部57.1%であった。本校は体育祭や文化祭などは生徒が中心となって動き、企画・運営に参画している。特に体育祭では終日教員がマイクを握ることはなく、全て生徒会を中心に生徒が指示を出し、全員で協力して行事を作っているが、それらが全て教育的に仕込まれており、人間的な成長を促していることに気づいていない生徒がいると思われる。旅行的な行事ではしおりを暗記するほど読み、当日はしおりを見ることなく行動できてこそ成長であり、卒業式の準備では会場見取り図を見て自主的に動くことで、生徒は成長を感じることができるが、そのようなことを事前に伝え、それぞれの行事が生徒のどのような力を伸ばすことを目指しているかを明確にしていきたい。

（7）国際理解教育

異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実しているかどうかに関しては、1が教員15.0%、生徒が中等部28.9%、高等部29.6%、保護者が中等部30.2%、高等部34.9%、2が教員77.5%、生徒が中等部46.6%、高等部48.1%、保護者が中等部56.0%、高等部56.6%であった。中3生はカナダ研修旅行、高2生はハワイで研修、またイギリスやシンガポール、台湾との双方向の短期留学を実施しているが、相手を知る努力をした上で自らの立場や考え、自国の文化などを論理的にかつ適切な言葉で発信していく力は十分ではないという評価である。各教科で作文やスピーチをさせる際には、聞き手や読み手を強く意識させ、相手を尊重する姿勢を身につけるよう指導したい。また、英語教育にもさらなる力を入れ、英検やGTECなどの点数だけでなく、生徒の会話力も高めるよう努める所存である。そのためにはまず教員の英語運用力を高めなければならない、ALTとの会話の振り返りを行うことでその効果を図りたい。

(8) 学校間連携

高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われているかという問いに対しては、1が教員 7.5%、生徒が中等部 22.6%、高等部 23.9%、保護者が中等部 21.3%、高等部 31.4%、2が教員 70.0%、生徒が中等部 47.4%、高等部 46.5%、保護者が中等部 50.7%、高等部 47.4%で、昨年度は1が 20.5%、2が 71.8%であった教員の評価が下がった。高大、中大、中高のいずれの連携ができていないと感じているのかはアンケート結果からは見えないが、高大連携に関しては、来年度は大学から先生方に来ていただき、学部の魅力を語っていただく回数を増やす予定である。中大連携は改良の余地があり、今後検討していく予定である。中等部と高等部の教員は職員会議以外で情報を共有することを増やしたい。

初等部との連携は、1が教員 2.6%、保護者が中等部 13.5%、高等部 12.7%、2が教員 30.8%、保護者が中等部 43.6%、高等部 45.0%で、教員は微増したが保護者はほぼ横ばいであった。中等部の教員は、初等部の教員と今年度は2回連絡協議会を持ち、指導法や生徒、中等部入試に関する情報交換を行った。また、中等部の教員は2月2日に開催された初等部の研究大会に参加して初等部の授業を見たり、中1～3の各1クラスで「考える科」の授業を公開した。中等部1年担当の教員は初等部での指導を参考にして、極力生徒との共有時間を増やして手厚く生徒を指導したので、設問1の「学校生活は楽しいと感じているか」の回答が、1が生徒（中等部1年）69.0%、保護者（中等部1年）63.9%、2が生徒（中等部1年）25.7%、保護者（中等部1年）28.9%、設問2の「本校に入学してよかったか」が、1が生徒（中等部1年）70.8%、保護者（中等部1年）59.0%、2が生徒（中等部1年）26.5%、保護者（中等部1年）33.7%と、かなり高い評価を得た。これは初等部の指導を引き継ぎ、教育的愛情を持って生徒に接し、時には厳しいが、笑顔を絶やさず細やかな指導をしてきた教員の努力の成果だと評価している。

(9) 相談体制

生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っているかという問いに対しては、1が教員 22.5%、生徒が中等部 22.0%、高等部 20.3%、保護者が中等部 18.6%、高等部 23.0%、2が教員 70.0%、生徒が中等部 44.3%、高等部 42.1%、保護者が中等部 51.9%、高等部 50.9%であった。肯定的な回答は、教員の1が若干減ったのに対し、生徒は増加した。教員と養護教諭は頻繁に話し合いの場を持って生徒の悩みや保護者の相談に乗れるよう準備しているし、カウンセラーも毎週来校して生徒の相談に乗れるよう体制を整えているが、十分に活用されていなかったり、その対応に満足できていなかったりする可能性があるため、改善していきたい。

(10) 教員の研修活動

本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実しているかという問いに対して、教員は1と回答した者が7.5%、2が62.5%であった。昨年は1が20.5%であったので、大幅に低下したことになる。校内研修は忙しい日程の合間を縫って学校経営やICT研修などを数度行ってきたが、教員はさらに研修を増やしてほしいと望んでいるようなので、長期休暇中に研修会を増やすことを考えていきたい。校外における研修会には積極的に参加している教員がおり、報告書も度々上がってきていた。

教員間で授業を見学し合い、互いに切磋琢磨して授業力を向上させる取組をしているかという問いには、2.5%の教員が1と回答し、2は57.5%であり、昨年は1、2を合わせて80%だったのが今年度は60%程度に落ち込んだ。年に2回、研究部が相互授業見学の期間を設けて公開授業を促したが、昨年を大きく上回る参加者がなかったため、次年度は時間割の工夫と教員の意識改革をしなければならないと考える。

工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられているかという問いに対して、生徒は1が中等部35.1%、高等部21.2%、2が中等部34.9%、高等部38.0%であった。保護者は、本校の教員が教材研究や指導力の向上に努めようとしているかという問いに対して、1が中等部21.5%、高等部25.9%、2が中等部53.5%、高等部47.1%で昨年を若干上回った程度で、合わせても70%を多少上回る程度である。これは生徒も保護者も依然として本校の授業内容に満足していないと考えるべきであって、内外の研修会を充実させて、授業力を向上させていかなければならない。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

(1) 自己評価の結果を受けて

ア 重点目標①：生徒の学力を向上させて各自の進路希望を実現させる（分かるようになる、できるようになる授業が展開される学校）

- ・キャリア教育に関しては、将来の進路に向けての意識を早い段階で持たせることが大切であると考える。
- ・高槻市の公立中学校としても、関西大学中等部・高等部を高槻市のフラッグシップ校として注目している。キャリア教育に関しても、自分たちで新しい時代や仕事を作っていくような将来のリーダーを育成されることを期待している。
- ・卒業論文の英文アブストラクトに加えて、研究成果を発表できるような英文ホームページを生徒に作成させるのもアクティブな取組としては有効ではないか。

イ 重点目標②：考動力とチャレンジ精神にあふれ、人を思いやり、言葉を大切にする生徒集団を育成する（笑顔と感動のある充実した学園生活を送れる学校）

- ・保護者として、スマホやSNSとの付き合い方について、家庭内で保護者が責任を持って関わっていく必要性を実感している。スマホに関して、時間の使い方やリスクなど、親子で話し合う機会を持ちたい。
- ・教育後援会の事業として、先生と生徒会と保護者がSNSについて話し合えるような場を持つ機会を設定することも必要ではないかと考えている。
- ・学校が生徒にSNSを利用するリスクを教えていくことが大切である。今は、保護者が安易に子守代わりにスマホを子どもに持たせる時代になっており、保護者への啓発も難しい状況にある。スマホを持たせている保護者の責任が大きいとは思いますが、学校としてもお互いに学ぶ機会を積極的に持ちたいと考えている。
- ・体育祭や文化祭を通じて、生徒に参画意識や当事者意識を持たせることは非常に重要な取組でありその結果、主体的に学ぶという点で学習にも生きてくるのではと期待している。

ウ 重点目標③：生徒を理解し、適切な指導をすることで信頼関係を築く（教師と生徒が信頼関係で結ばれた学校）

- ・授業とは別の時間に教員と生徒がコミュニケーションを取る機会を持つことによって、教師と生徒の信頼関係が築かれる。
- ・アンケート結果は、あくまで参考数値であり、数値だけを目指にするのではなく、このデータをもとに教員が生徒にどのような問い掛けをするかということが大事なことであるとする。

(2) アンケート結果について

- ・生徒用アンケートの質問項目10の「将来やりたいことが見つかリ、それに向けて逆算して準備を進めていますか」の肯定的回答が低いとの説明があったが、自分の将来を意識することは確かに大切なことではあるが、中学生や高校生が現実的にそのようなことを考えるのは、大学受験前の高校3年生になってからではないかと考える。単なる夢は持っていますが、具体的な進路となると、これぐらいの割合ではないかとも感じている。
- ・アンケートの質問に対して、生徒が考えること自体が大切である。
- ・卒業式当日に卒業生にアンケートを取るということも、ひとつの試みではないか。大学では、入学時と卒業時にアンケートを取っている。アンケートの取り方自体を3併設校で検討してみてもどうか。

【学校関係者評価委員会委員名簿】

氏名	所属及び役職
吉川 明	高槻市中学校校長会 会長
江澤 由	関西大学中等部・高等部教育後援会 会長
小澤 守	関西大学社会安全学部 教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
田尻 悟郎	関西大学中等部・高等部 校長

6 校長の意見書

関西大学中等部・高等部

校長 田尻 悟郎

アンケートの結果から見えることとして、生徒は本校での学校生活を楽しんではいるが、学力的に、人間的に成長するための支援を十分受けているとは感じていないことが挙げられる。教員は多忙を極める職場の中で最善を尽くしてはいるが、効果的な指導法を模索している段階で、必ずしも成果が上がっているという実感が持てていないことも同時に見て取れる。アンケート結果からは、その解決のための1つのキーワードが「研修」であることが浮かび上がってきた。

公立学校は教育委員会や教育センターが主催する研修会が頻繁に実施されており、中には悉皆研修もある。一方で私立学校の教員は、自らが求めて研修しなければ全くその機会がなく、成長しないままに時間が過ぎていく恐れもある。それを解消するためには、外部から講師を招いて研修会を開いたり、授業を見る観点を共有した上で相互授業見学をし、合評会で意見交換を重ねることで自らの授業を振り返ったりする必要がある。働き方改革の波が押し寄せの中で学習指導の成果を上げ

るには、補習ではなく授業の充実が求められるので、研修は必須になってくると思われる。しかし、研修するだけでは成果が上がらず、授業を見てアドバイスを与える者がいなければならない。今後、関西大学から各教科の教育法を担当している教員に依頼して、授業力向上のためのメンター制度を導入することも考えていきたい。

生徒の声に耳を傾けることに関しては、日頃から生徒の中に入って生徒の言動をつぶさに観察したり、生活日記や作文などを添削することで彼らの思いを知る努力をしたり、カウンセリング体制をさらに充実することなどが考えられる。今年度発生した生徒指導案件を振り返ってみると、より低学年の時に起こる可能性が高い事例が目立った。学校生活を通して様々な体験をさせ、課題解決を多く経験させ、聞き手、読み手を意識する話し方、書き方などを学習することによって、自らの言動がどう思われているか、問題が発生したらどう解決していくかなどについて、普段から考えさせたい。また、教員間での情報共有、協力体制の構築なども充実させていきたい。

生徒指導上の問題を減少させるためには、授業内外で成功体験をさせることや、教育的愛情を持って生徒に接し、どの生徒も大切であるというメッセージを出し続けることで生徒に喜びを感じさせたり、生徒の心を潤したりすることが必要である。

例えば、提出物に対して確認印を押すだけで返却するのではなく、フィードバックを与え、コメントをつけるなどすれば、生徒は教師の努力を知って教師に対して心を開くようになると思われる。それが、生徒のポジティブな心の状態につながり、生徒指導上の問題が減るのではないかと推察する。

生徒が分かるようになるための授業、できるようになるための授業を展開する教員は、分からない生徒、できない生徒がいると気になり、個別対応し、生徒とともに苦悩し、指導法を工夫する。それがその教員の成長につながるものであり、レクチャー型の授業をしている教員にはその機会はない。そして苦勞の末に分かるようになったりできるようになったりした時、生徒は喜び、教員はその感動を共有する。それが生徒の満足度につながり、生徒指導上の問題を減少させる。そういうことを教員が共有できるよう、来年度は校内研修を充実させたい。

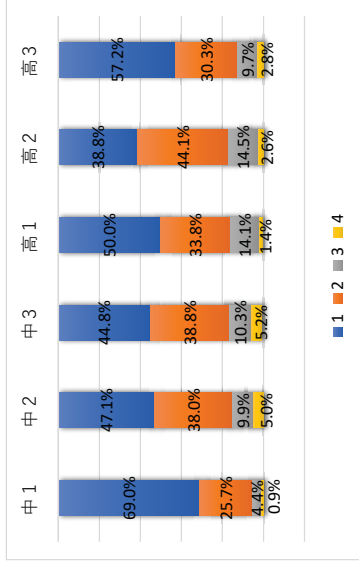
7 アンケート結果

2018年度 学校評価アンケート集計（生徒用／保護者用／教員用）

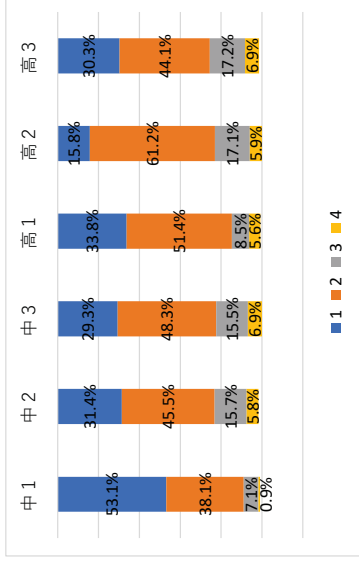
以 上

生徒集計 ([1] …そう思う [2] …どちらかと言えばそう思う [3] …どちらかと言えばそう思う [4] …そう思わない)

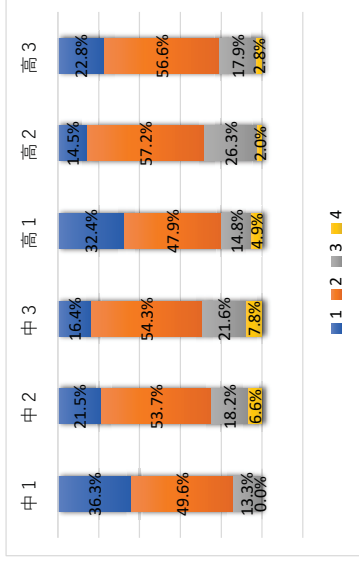
学校生活は楽しいと感じていますか。



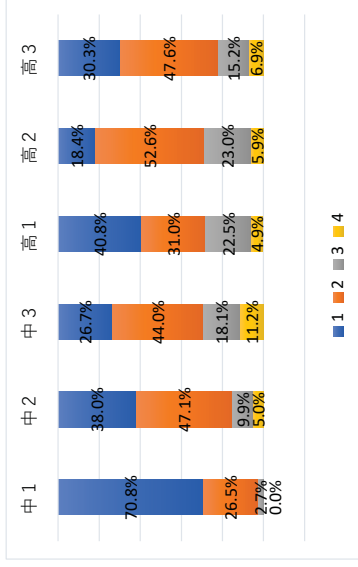
登下校時を中心に、関大中等部生としての自覚をもって行動していますか。



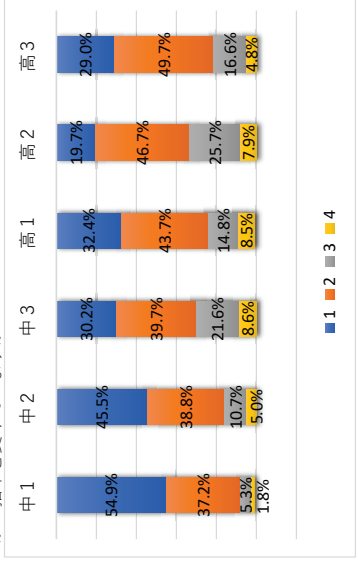
「情報」「総合」等の授業を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。



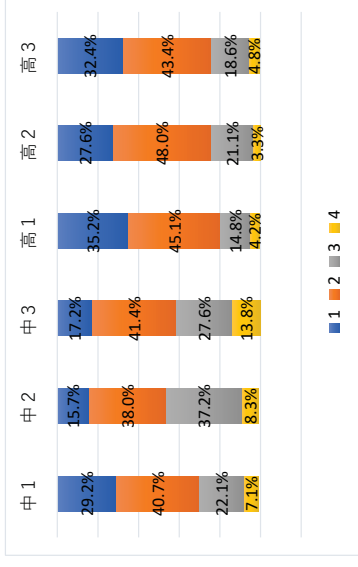
この学校に入学して良かったと思いますか。



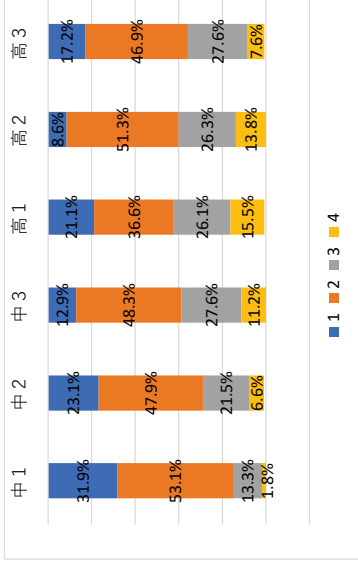
事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいか、指示を受けていますか。



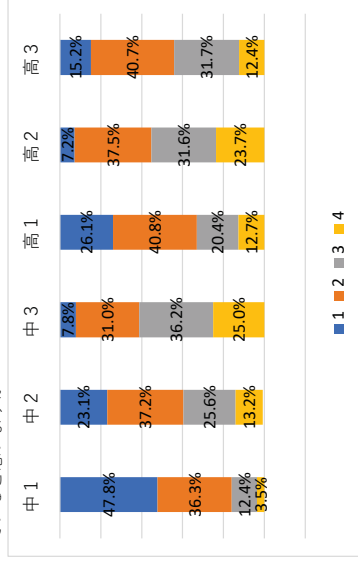
関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学のパターンが上がってきましたか。



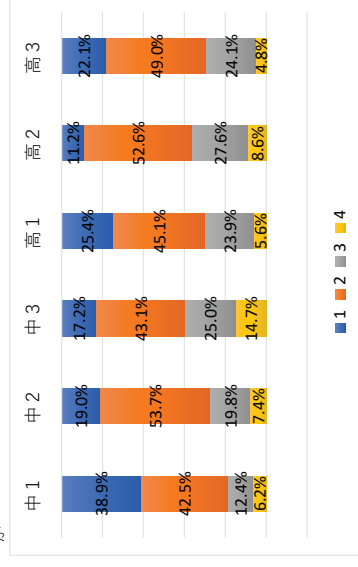
本校の教育方針を理解していますか。



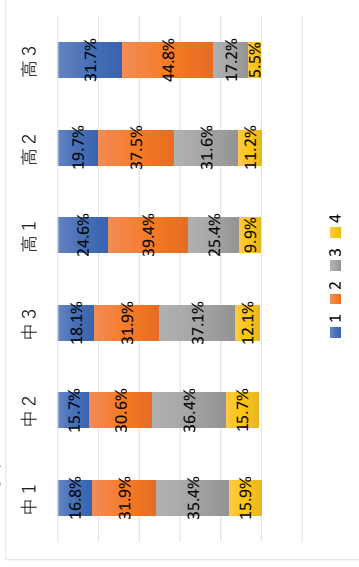
先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。



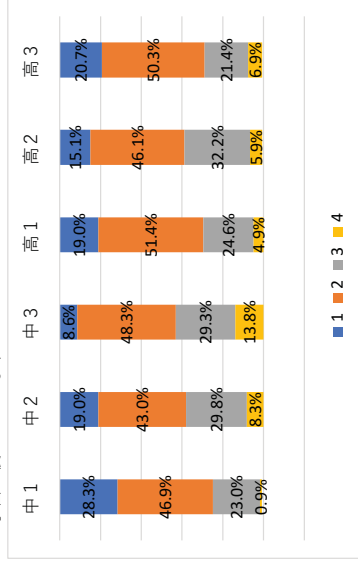
授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。



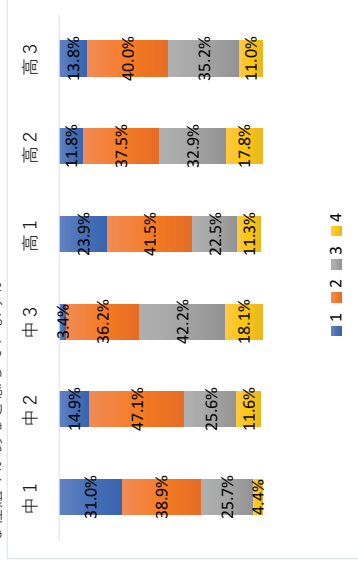
将来やりたいことが見つかり、それに向けて逆算をして準備を始めていますか。



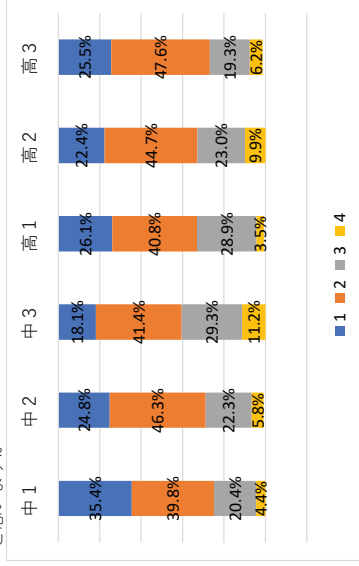
模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。



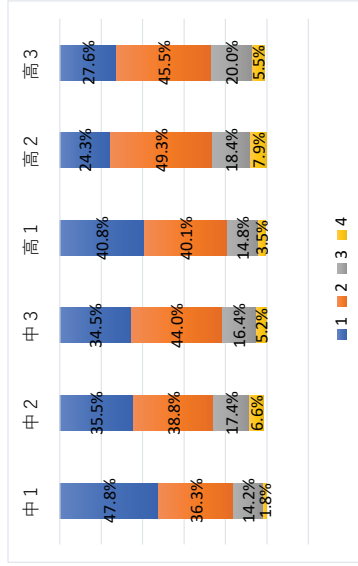
成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。



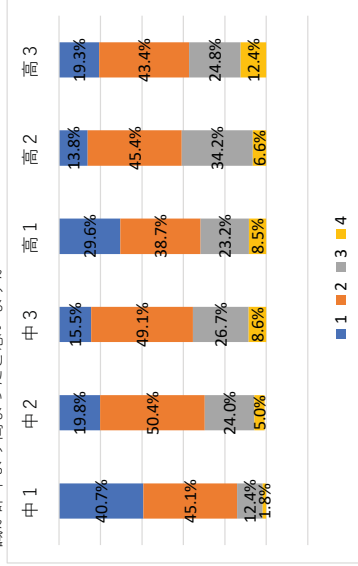
課題や提出物にまじめに取り組む、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。



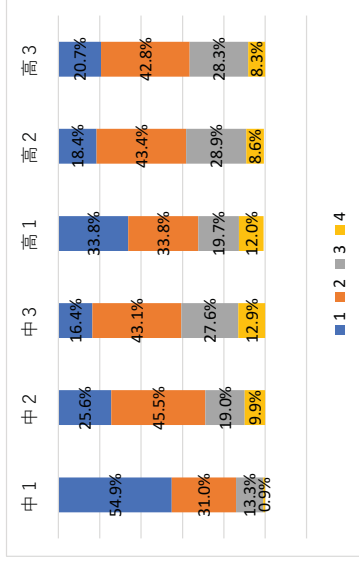
自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。



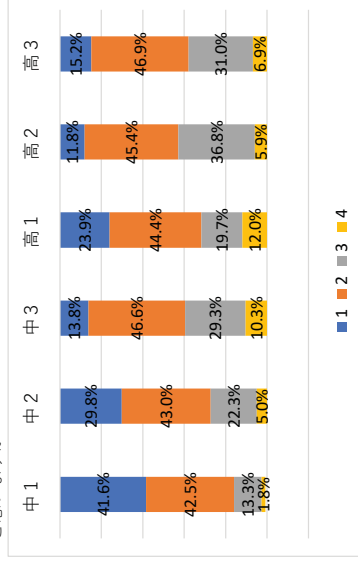
生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。



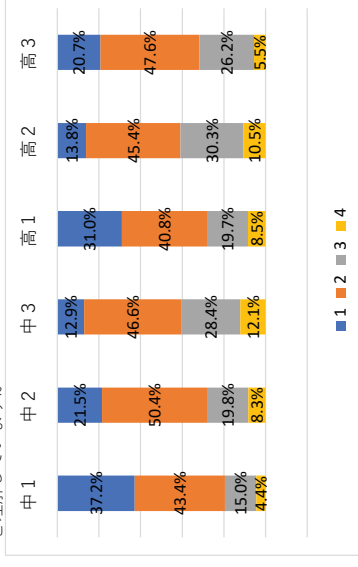
いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。



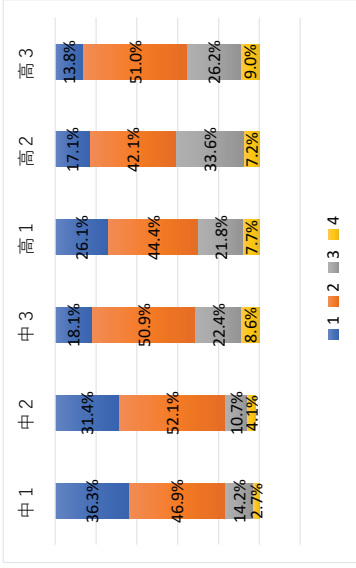
他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。



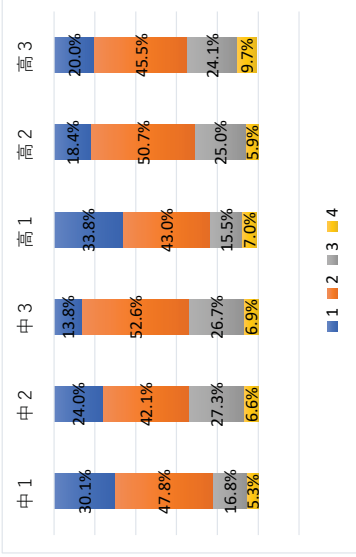
先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。



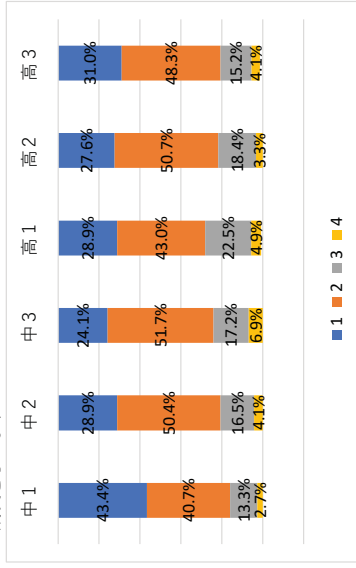
基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。



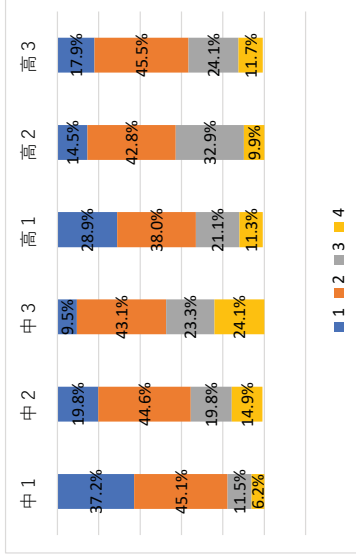
高大（あるいは中大、中高の学校同士）の教育連携があると思いますか。



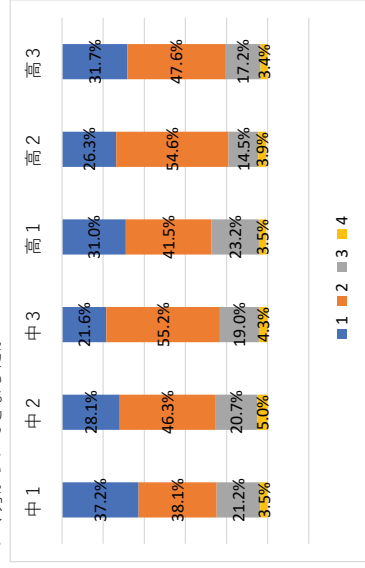
各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか。



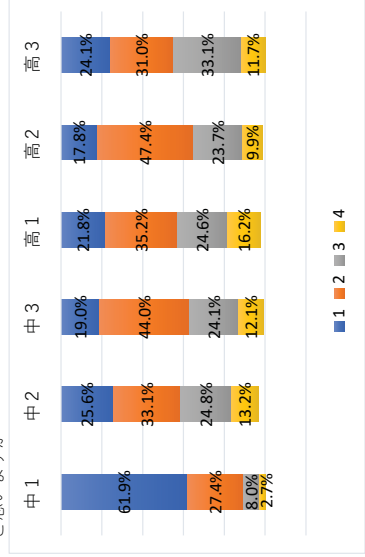
悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。



異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか。



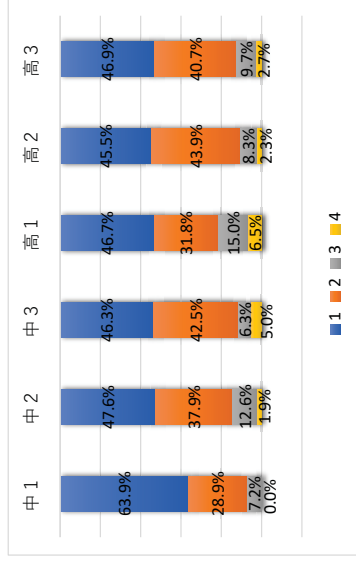
工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。



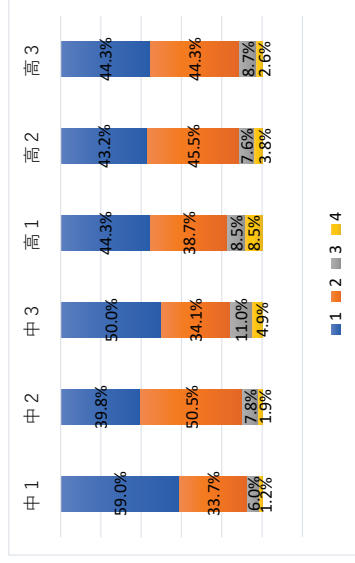
保護者集計

（ [1] …そう思う [2] …どちらかと言うとそう思う [3] …どちらかと言えばそう思う [4] …そう思わない）

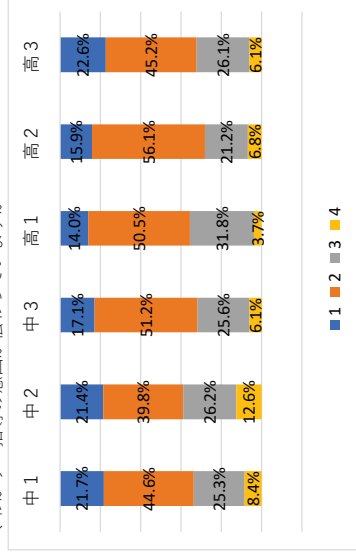
ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか。



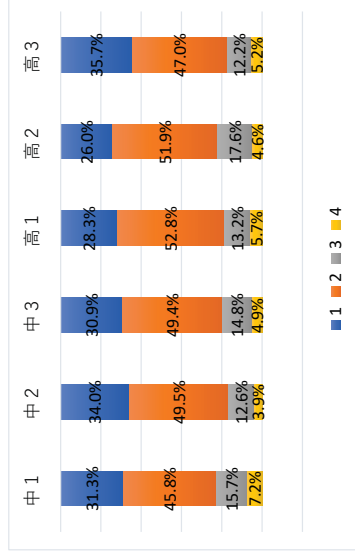
保護者として、この学校に入学させて良かったと思われませんか。



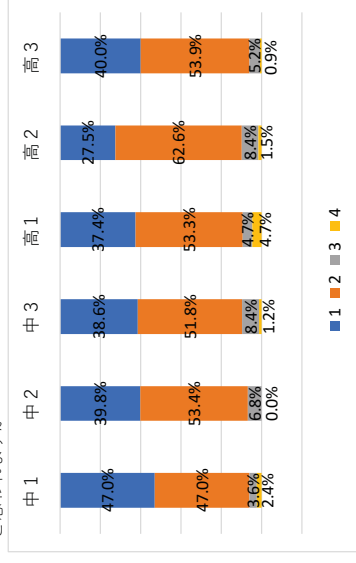
ウェブや学校からの連絡、学級通信等によって、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。



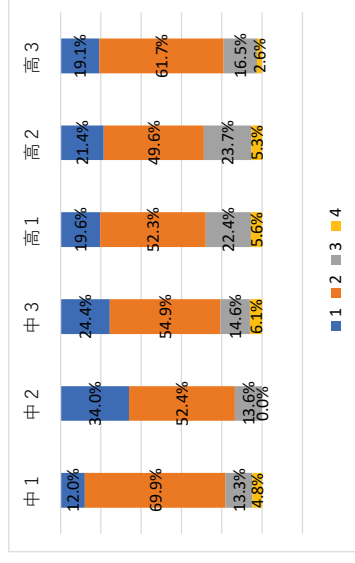
避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われませんか。



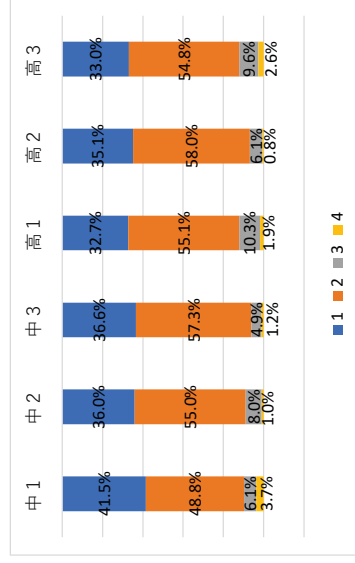
学校は個人情報情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われませんか。



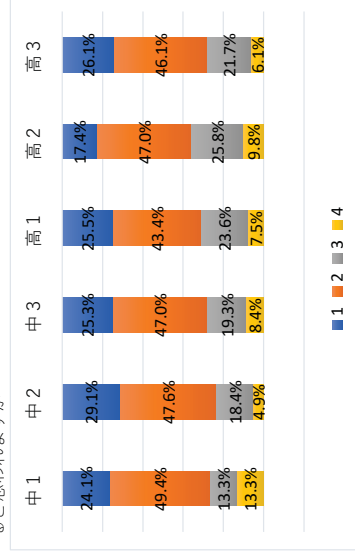
本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用が行われていると思われませんか。



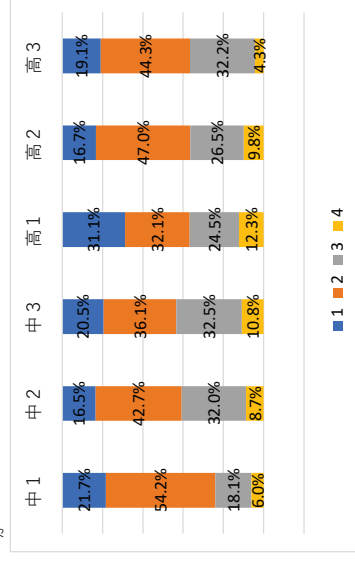
本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。



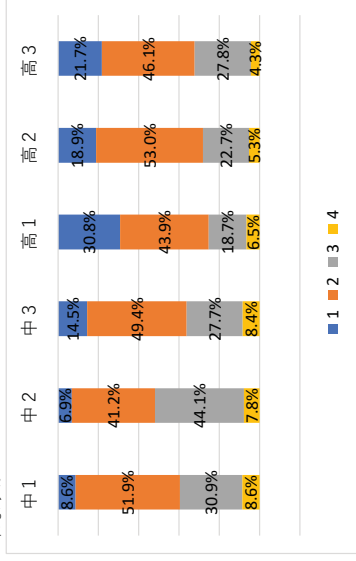
学校は、事故、事件、災害に対する対応的的確な組織になっていると思われませんか。



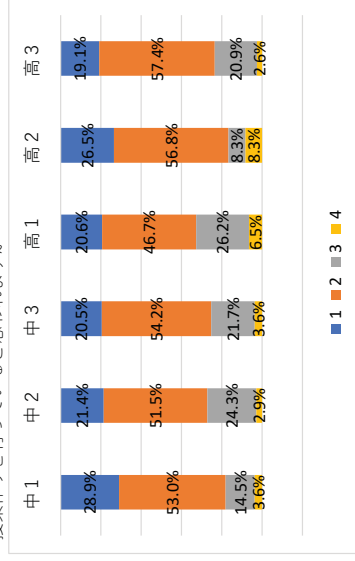
本校は学力向上のために組織的な取組を行っていると思われませんか。



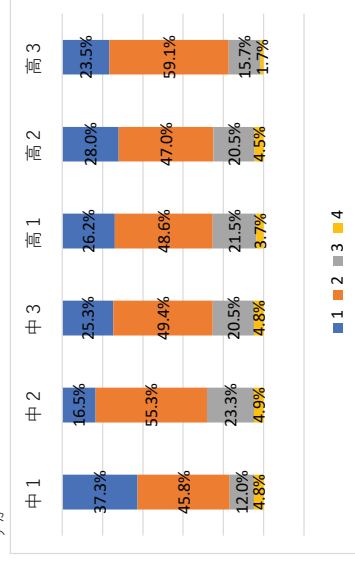
お子様が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための指導がなされていると思われ
れますか。



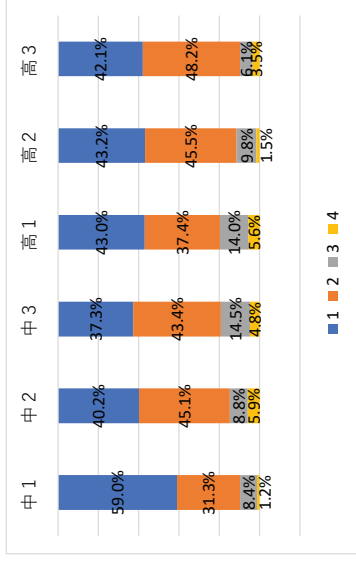
生徒が主体的に対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための
授業作りを行っていると思われませんか。



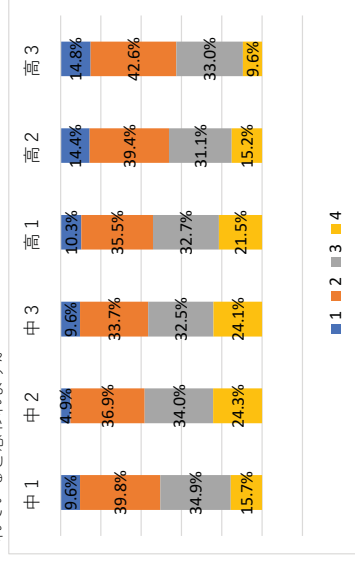
学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われま
すか。



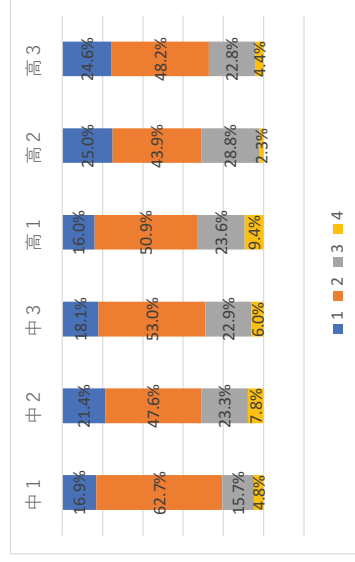
学校は電子黒板やPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容
の工夫に取り組んでいると思われませんか。



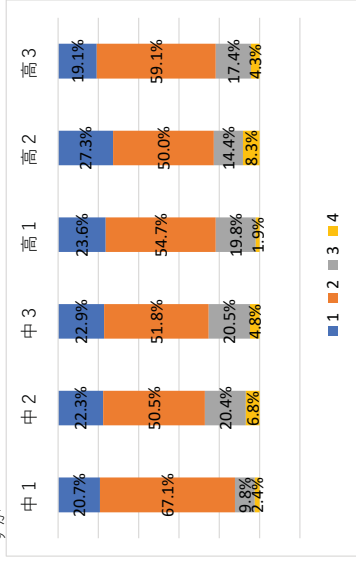
習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行わ
れていると思われませんか。



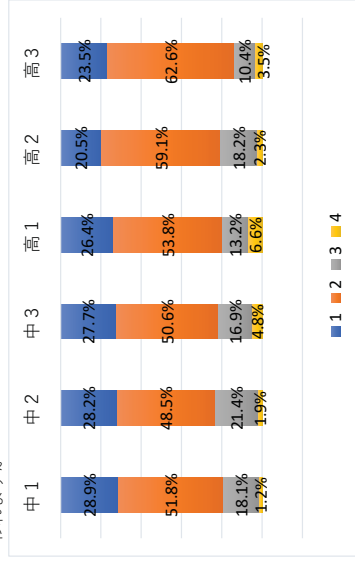
学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われませんか。



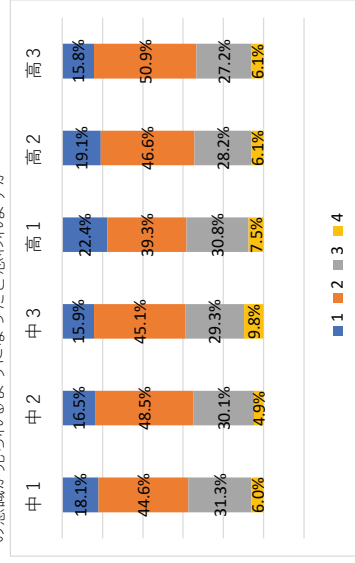
学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナー
やモラルを向上させる取組が行われていると思われま
すか。



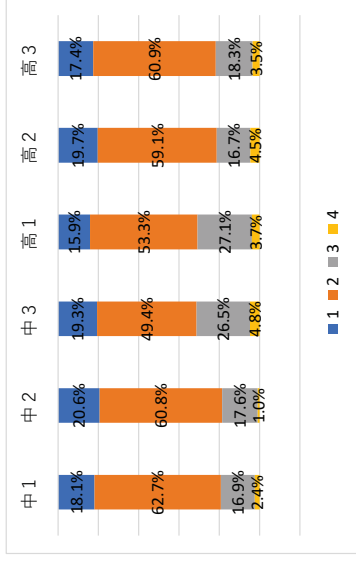
いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思
われませんか。



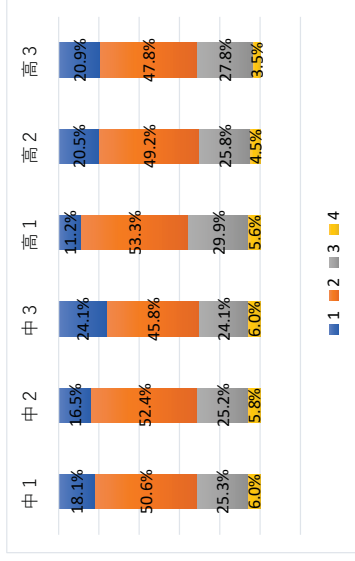
お子さまの日常的な言動の中に、社会や地域、他者に対する貢献
の意識が見られるようになったと思われませんか。



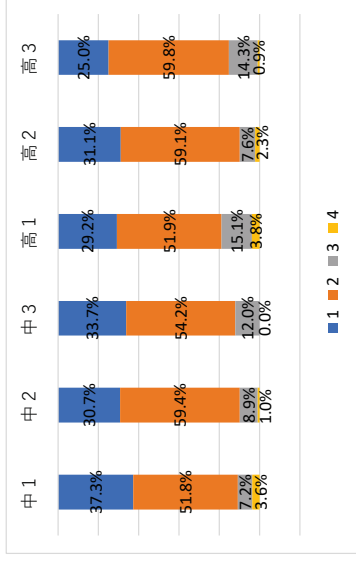
本校では、他者の人権を尊重する教育が十分に行われていると思われませんか。



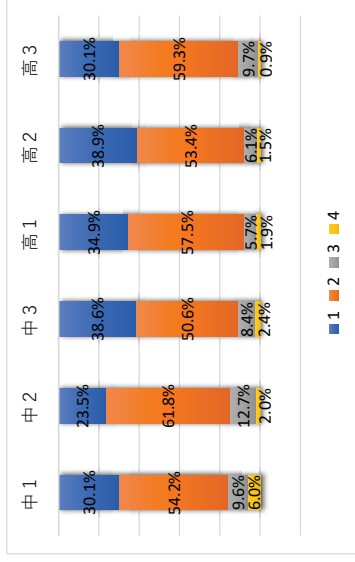
本校は、生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇話や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われませんか。



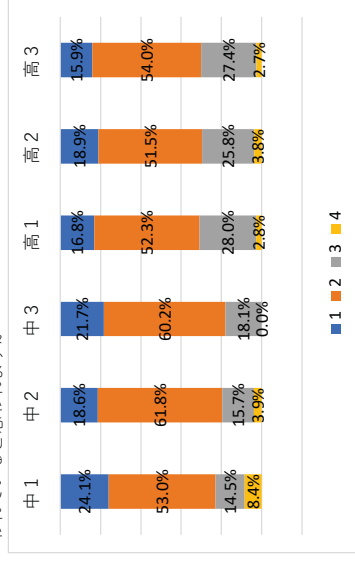
各学校行事の意義や目的を生徒に理解させ、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされていると思われませんか。



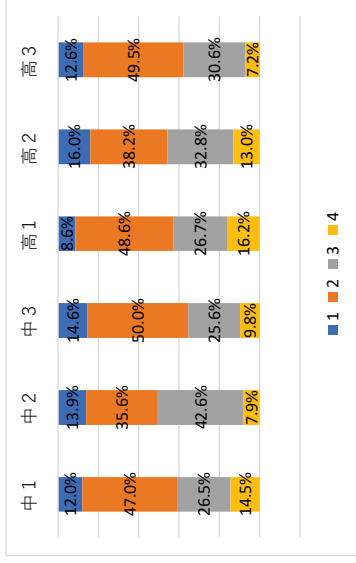
異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実していると思われませんか。



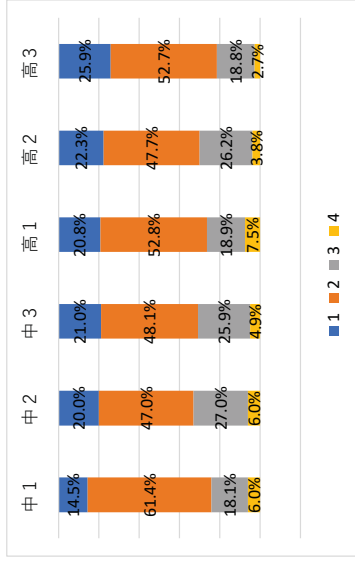
基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われませんか。



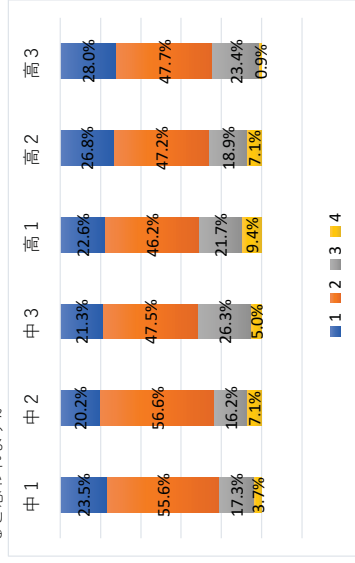
初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われませんか。



子どもに何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われませんか。



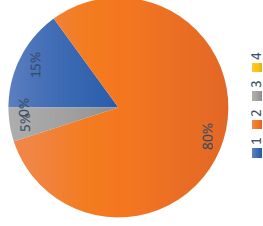
本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようと思っていますか。



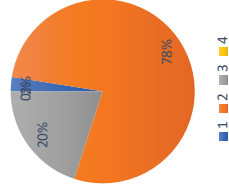
教員集計

([1] …そう思う [2] …どちらかと言えばそう思う [3] …どちらかと言えばそう思わない [4] …そう思わない)

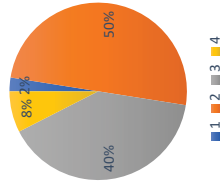
本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。



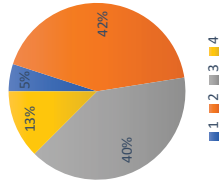
本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。



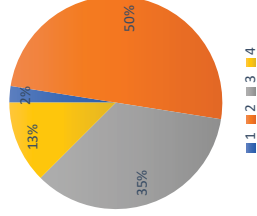
建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。



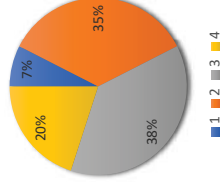
職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。



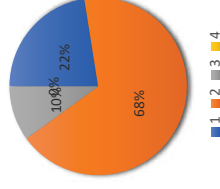
教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。



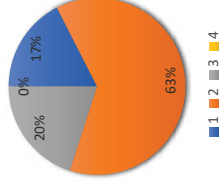
管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。



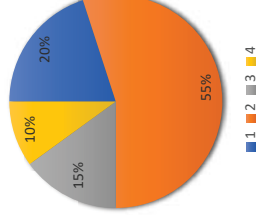
教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。



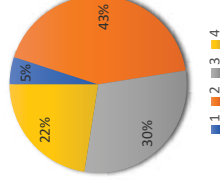
ウェアや学級通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を心がけている。



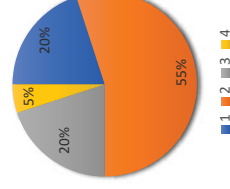
警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。



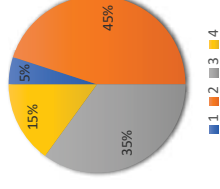
事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。



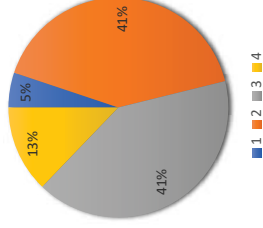
生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。



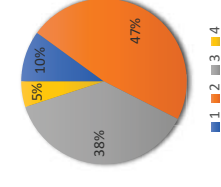
本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行っている。



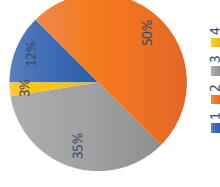
学力向上のための組織的な取組を行っている。



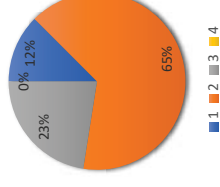
生徒が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための組織的な指導がなされている。



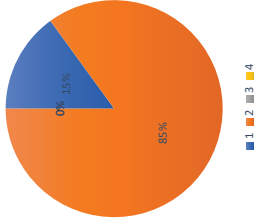
生徒が主体的に対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを組織的にしている。



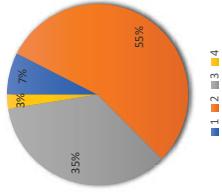
模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制がとられている。



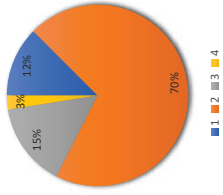
電子黒板やPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる。



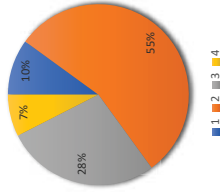
学力不足生徒へのフォローのための補習授業や個人指導を行っている。



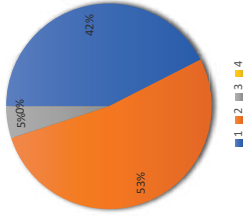
学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との雑談や連絡を緊密に行っている。



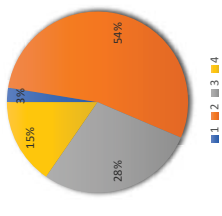
生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。



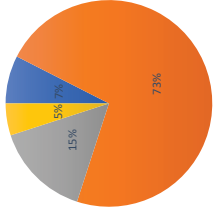
いじめの早期把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発掘に努める体制が整い学校組織として共有できている。



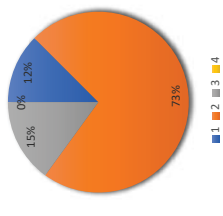
授業や学級会活動などを通して地域・社会の現状を知らせ、自主的な社会貢献を促している。



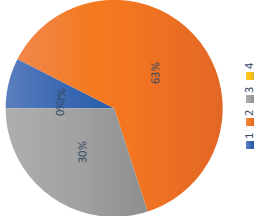
他者の人権を尊重する教育が計画的に行われている。



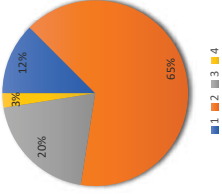
生徒の学校生活や家庭生活について保護者との雑談や連絡を密に行い、相互理解を図っている。



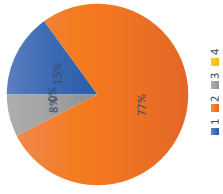
基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。



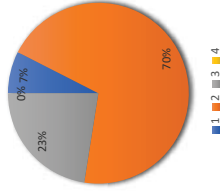
各学校行事の意義や目的を生徒が理解しており、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされている。



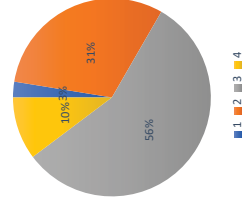
異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実している。



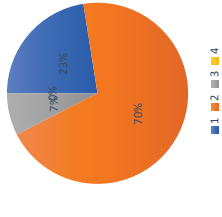
高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。



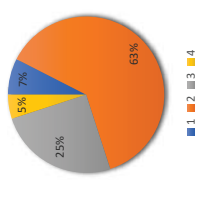
初等部の授業を見学したり、自らの授業を見てもらったり、初等部の教員と話し合ったりして、初中高連携を図っている。



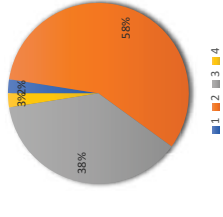
生徒・保護者の関心に対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。



本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。



教員間で授業を見学し合あい、互いに切磋琢磨して授業力を向上させる取り組みをしている。



2018年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート 結果(生徒用)

([1]…そう思う [2]…どちらかと言えばそう思う [3]…どちらかと言えばそう思わない [4]…そう思わない)

No.	設問	中等部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	学校生活は楽しいと感じていますか。	53.4%	34.3%	8.3%	3.7%	48.5%	36.2%	12.8%	2.3%
2	この学校に入学して良かったと思いますか。	44.9%	39.4%	10.3%	5.4%	29.6%	44.0%	20.3%	5.9%
3	本校の教育方針を理解していますか。	22.6%	49.7%	20.9%	6.6%	15.5%	45.1%	26.7%	12.3%
4	登下校時を中心に、関大中高等部生としての自覚をもって行動していますか。	37.7%	44.0%	12.9%	4.6%	26.4%	52.4%	14.4%	6.2%
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示を受けていますか。	43.4%	38.6%	12.6%	5.1%	26.9%	46.7%	19.1%	7.1%
6	先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。	26.0%	34.9%	24.9%	14.0%	15.9%	39.6%	28.0%	16.4%
7	「情報」「総合」等の授業を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。	24.6%	52.6%	17.7%	4.9%	23.0%	54.0%	19.8%	3.2%
8	関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか。	20.6%	40.0%	29.1%	9.7%	31.7%	45.6%	18.2%	4.1%
9	授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。	24.9%	46.6%	19.1%	9.4%	19.4%	49.0%	25.3%	6.4%
10	将来やりたいことが見つかり、それに向けて逆算をして準備を始めていますか。	16.9%	31.4%	36.3%	14.6%	25.3%	40.5%	24.8%	8.9%
11	模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。	18.6%	46.0%	27.4%	7.7%	18.2%	49.2%	26.2%	5.9%
12	成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。	16.3%	40.9%	31.1%	11.4%	16.4%	39.6%	30.3%	13.4%
13	課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。	26.0%	42.6%	24.0%	7.1%	24.6%	44.4%	23.7%	6.6%
14	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。	39.1%	39.7%	16.0%	4.6%	30.8%	45.1%	17.8%	5.7%
15	生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。	25.1%	48.3%	21.1%	5.1%	20.7%	42.6%	27.6%	9.1%
16	いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。	32.0%	40.0%	20.0%	8.0%	24.1%	40.1%	25.7%	9.6%
17	他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。	28.3%	44.0%	21.7%	5.7%	16.9%	45.6%	29.4%	8.2%
18	先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。	23.7%	46.9%	21.1%	8.3%	21.6%	44.6%	25.5%	8.2%
19	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。	28.6%	50.0%	15.7%	5.1%	18.9%	45.8%	27.3%	8.0%
20	各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか。	32.0%	47.7%	15.7%	4.6%	29.2%	47.4%	18.7%	4.1%
21	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか。	28.9%	46.6%	20.3%	4.3%	29.6%	48.1%	18.2%	3.6%
22	高大(あるいは中大、中高の学校同士)の教育連携があると思いますか。	22.6%	47.4%	23.7%	6.3%	23.9%	46.5%	21.6%	7.5%
23	悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。	22.0%	44.3%	18.3%	15.1%	20.3%	42.1%	26.2%	10.9%
24	工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。	35.1%	34.9%	19.1%	9.4%	21.2%	38.0%	27.1%	12.5%

2018年度 関西大学中部・高等部 自己点検・評価アンケート 結果(保護者用)

[1]…そう思う [2]…どちらかと言えばそう思う [3]…どちらかと言えばそう思わない [4]…そう思わない

No.	設問	中部部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか。	52.3%	36.5%	9.0%	2.3%	46.3%	39.2%	10.8%	3.7%
2	保護者として、この学校に入学させて良かったと思われませんか。	48.9%	40.3%	8.2%	2.6%	43.9%	43.1%	8.2%	4.8%
3	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。	37.9%	53.8%	6.4%	1.9%	33.7%	56.1%	8.5%	1.7%
4	ウェブや学校からの連絡、学級通信等によって、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。	20.1%	44.8%	25.7%	9.3%	17.5%	50.8%	26.0%	5.6%
5	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われませんか。	32.2%	48.3%	14.2%	5.2%	29.8%	50.6%	14.5%	5.1%
6	学校は、事故、事件、災害に対する対応が確かな組織になっていると思われませんか。	26.4%	48.0%	17.1%	8.6%	22.7%	45.6%	23.8%	7.9%
7	学校は個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われませんか。	41.6%	50.9%	6.3%	1.1%	34.6%	56.9%	6.2%	2.3%
8	本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用が行われていると思われませんか。	24.3%	58.6%	13.8%	3.4%	20.1%	54.4%	21.0%	4.5%
9	本校は学力向上のために組織的な取組を行っていると思われませんか。	19.3%	44.2%	27.9%	8.6%	21.8%	41.6%	27.8%	8.8%
10	お子様が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための指導がなされていると思われませんか。	9.8%	47.0%	35.0%	8.3%	23.4%	48.0%	23.2%	5.4%
11	生徒が主体的で対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを行っていると思われませんか。	23.4%	52.8%	20.4%	3.3%	22.3%	54.0%	17.8%	5.9%
12	学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われませんか。	25.7%	50.6%	19.0%	4.8%	26.0%	51.4%	19.2%	3.4%
13	学校は電子黒板やPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいると思われませんか。	45.1%	40.3%	10.4%	4.1%	42.8%	43.9%	9.9%	3.4%
14	習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行われていると思われませんか。	7.8%	36.8%	33.8%	21.6%	13.3%	39.3%	32.2%	15.3%
15	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われませんか。	19.0%	53.9%	20.8%	6.3%	22.2%	47.4%	25.3%	5.1%
16	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われませんか。	22.0%	56.0%	17.2%	4.9%	23.5%	54.4%	17.0%	5.1%
17	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われませんか。	28.3%	50.2%	19.0%	2.6%	23.2%	58.6%	14.2%	4.0%
18	お子さまの日常的な言動の中に、社会や地域、他者に対する貢献の意識が見られるようになったと思われませんか。	16.8%	46.3%	30.2%	6.7%	19.0%	45.7%	28.7%	6.5%
19	本校では、他者の人権を尊重する教育が十分に行われていると思われませんか。	19.4%	57.8%	20.1%	2.6%	17.8%	57.9%	20.3%	4.0%
20	本校は、生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われませんか。	19.3%	49.8%	24.9%	5.9%	17.8%	50.0%	27.7%	4.5%
21	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われませんか。	21.3%	58.6%	16.0%	4.1%	17.3%	52.6%	27.0%	3.1%
22	各学校行事の意義や目的を生徒に理解させ、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされていると思われませんか。	33.7%	55.4%	9.4%	1.5%	28.6%	57.1%	12.0%	2.3%
23	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実していると思われませんか。	30.2%	56.0%	10.4%	3.4%	34.9%	56.6%	7.1%	1.4%
24	高大(あるいは中大、中高の学校同士)の教育連携が積極的に行われていると思いませんか。	21.3%	50.7%	22.4%	5.6%	31.4%	47.4%	16.3%	4.9%
25	初等部と中部・高等部との連携が十分に行われていると思われませんか。	13.5%	43.6%	32.3%	10.5%	12.7%	45.0%	30.3%	12.1%
26	子どもに何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていますか。	18.6%	51.9%	23.9%	5.7%	23.0%	50.9%	21.6%	4.6%
27	本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われませんか。	21.5%	53.5%	19.6%	5.4%	25.9%	47.1%	21.2%	5.9%

2018年度 関西大学中部部・高等部 自己点検・評価アンケート結果(教員用)

([1]…そう思う [2]…どちらかと言えばそう思う [3]…どちらかと言えばそう思わない [4]…そう思わない)

No.	組織面の自己点検・評価(設問)	1	2	3	4
1	本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。	15.0%	80.0%	5.0%	0.0%
2	本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。	2.5%	77.5%	20.0%	0.0%
3	建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。	2.5%	50.0%	40.0%	7.5%
4	職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。	5.0%	42.5%	40.0%	12.5%
5	教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	2.5%	50.0%	35.0%	12.5%
6	管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。	7.5%	35.0%	37.5%	20.0%
7	教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。	22.5%	67.5%	10.0%	0.0%
8	ウェブや学級通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を心がけている。	17.5%	62.5%	20.0%	0.0%
9	警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。	20.0%	55.0%	15.0%	10.0%
10	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。	5.0%	42.5%	30.0%	22.5%
11	生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。	20.0%	55.0%	20.0%	5.0%
12	本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行っている。	5.0%	45.0%	35.0%	15.0%
13	学力向上のための組織的な取組を行っている。	5.1%	41.0%	41.0%	12.8%
14	生徒が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための組織的な指導がなされている。	10.0%	47.5%	37.5%	5.0%
15	生徒が主体的で対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを組織的にしている。	12.5%	50.0%	35.0%	2.5%
16	模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制がとられている。	12.5%	65.0%	22.5%	0.0%
17	電子黒板やPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる。	15.0%	85.0%	0.0%	0.0%
18	学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。	7.5%	55.0%	35.0%	2.5%
19	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。	12.5%	70.0%	15.0%	2.5%
20	生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。	10.0%	55.0%	27.5%	7.5%
21	いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている。	42.5%	52.5%	5.0%	0.0%
22	授業や学級会活動などを通して地域・社会の現状を知らせ、自主的な社会貢献を促している。	2.6%	53.8%	28.2%	15.4%
23	他者の人権を尊重する教育が計画的に行われている。	7.5%	72.5%	15.0%	5.0%
24	生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っている。	12.5%	72.5%	15.0%	0.0%
25	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。	7.5%	62.5%	30.0%	0.0%
26	各学校行事の意義や目的を生徒が理解しており、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされている。	12.5%	65.0%	20.0%	2.5%
27	異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実している。	15.0%	77.5%	7.5%	0.0%
28	高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。	7.5%	70.0%	22.5%	0.0%
29	初等部の授業を見学したり、自らの授業を見てもらったり、初等部の教員と話し合ったりして、初中高連携を図っている。	2.6%	30.8%	56.4%	10.3%
30	生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。	22.5%	70.0%	7.5%	0.0%
31	本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。	7.5%	62.5%	25.0%	5.0%
32	教員間で授業を見学し合い、互いに切磋琢磨して授業力を向上させる取り組みをしている。	2.5%	57.5%	37.5%	2.5%